

第13期Bコース（カナダ オンタリオ州）出発レポート

□ 留学に向けて出発

令和7年8月25日（月）、第13期Bコース研修生がカナダ・オンタリオ州での留学に出発しました。成田空港では、東京都教職員研修センターの職員から「皆さんには帰る場所があります。何も恐れず、様々なことに果敢に挑戦し、無事に元気に日本に帰ってきましょう。」など、今後の留學生活に向けた励ましのメッセージが送られました。研修生たちは多くの保護者の温かい見送りを受け、期待を胸にトロントへ出発しました。

トロント・ピアソン空港到着後の入国審査では時間がかかりましたが、全員無事に入国審査を終えることができました。

入国審査の後は、バスで到着オリエンテーション会場となるホテルに移動しました。ホテルでの夕食は各自メニューから選んだ料理を注文して食事をとりながら、研修生同士の絆を深めることができました。どの料理もボリュームが多く、早速日本との違いを体験することができました。約12時間にも及ぶ長時間のフライト後にもかかわらず、翌日からのオリエンテーションの流れなどの説明を聞いて明日に備え休息を取りました。

<成田空港 出発式の様子>



<トロント・ピアソン空港での集合写真>



□ 到着オリエンテーション

トロント到着の2日目よりオリエンテーションが開始されました。現地スタッフによるアクティビティを通してコミュニケーションの重要性について確認した後、現地校での生活指針、ホームステイ先での適切な過ごし方、留學中に遵守すべき規則および緊急時の連絡方法等について詳細な説明を受けました。これらの準備により、今後の留學生活に向けて適切な心構えを持って臨むことが可能となりました。

<ホストファミリーとの会話についてのロールプレイ>



< 1分間スピーチの様子 >

トロント到着から3日目のオリエンテーション後、研修生たちはそれぞれ「将来こうなりたい」という自分の理想像を英語で1分間でスピーチをしました。「未知のことにも前向きに挑戦したい」「ボランティアやクラブ活動を通じて視野を広げたい」など、どの言葉にも新しい環境への期待と意欲が込められていました。自身の目標を胸に決意を新たにした後、現地スタッフから励ましのメッセージが贈られ、これから始まる留学生活への士気が一層高まりました。



□ ホストファミリーとの対面

オリエンテーションを終えた研修生たちは、新たな期待を胸に、ホストファミリーとの対面場所へと向かいました。地域ごとのグループに分かれてバスに乗り込むその姿からは、カナダでの生活がいよいよ始まる高揚感が伝わってきました。

慣れない海外、長時間のフライトの疲れもあったことでしょう。しかし、待ちに待ったホストファミリーに出迎えられると、緊張もすぐに和らぎ、研修生たちは明るい笑顔で握手やハグを交わしながら、元気よく自己紹介をしていました。

これから令和8年6月末までの約11か月間、研修生たちはカナダの自然あふれる環境の中でホームステイをし、現地校に通いながらかけがえのない体験を重ねていきます。日本の「大使」として日々を送り、リーダーシップやコミュニケーション力、多角的に物事を捉える力など、さまざまな力を養っていくことでしょう。

日常の中では何気なく使っていた日本語も、英語で表現するにはどうすればよいか頭を悩ませながら、語彙を増やし、伝える工夫を重ねていきます。家族や慣れ親しんだ環境を離れ、言語も文化も異なる新しい土地で、驚きや発見を重ねる一方、戸惑いや困難にも直面するはずですが、そうした壁にぶつかったときこそ、自分の考えや感覚との違いをどう受け止め、どう乗り越えるかを学ぶ機会となります。

次世代リーダー育成道場に入校した当初の志と、留学にかける熱い想いを決して忘れず、これからの経験を糧に大きく成長して行ってほしいと心から願っています。

成長した研修生たちと再会できるのを心待ちにしています。

<トロント旧市庁舎前での集合写真>



<ホストファミリーとの対面の様子>

